

イベントレポート 第3回IPA国際ワークショップ

開催結果報告 Part1

更新日 2010.12.6



開催日：2010年10月14日(木)- 15日(金)
 開催地：中華人民共和国上海市
 会場：オークラガーデンホテル上海(花園飯店)
 主催：IPA実行委員会及び事務局
 後援：同済大学
 中国土木工程学会地下空間委員会
 協賛：株式会社技研製作所
 新日本製鐵株式会社
 三井物産株式会社
 上海市第二市政工程有限公司
 出席者：8カ国約200名

プログラム：
 ・圧入工学等の特別プレゼンテーション
 ・第2回IPA研究助成賞 研究成果発表
 ・第3回IPA研究助成賞 授賞式典と研究提案プレゼンテーション
 ・圧入機のデモンストレーション
 ・レセプションと晩餐会(交流会)



10月14～15日の2日間、中華人民共和国上海市にて「第3回IPA国際ワークショップ」が開催され、世界8カ所の国と地域から約200名の学術研究者や技術者が参加しました。

イギリス、アメリカに続き、今回はアジアで初めての開催です。第2回ワークショップで、地元ニューオーリンズの米国陸軍工兵隊などが後援してくれたように、今回も土木分野で中国一の名門校・同済大学と中国土木工程学会地下空間委員会、地元の国営大手ゼネコン・上海市第二市政工程有限公司などから多大なご協力をいただき、内容・規模共に大変充実した会議となりました。

恒例の研究助成賞の授賞式典と成果報告の他に、圧入工学の理論に関する研究活動や圧入技術の実践による社会貢献など、様々な分野や角度からプレゼンテーションが行われました。さらに、最終日に開催された圧入見学会では、この日のために(株)技研製作所が用意した圧入機と専門スタッフにより、参加者は実機操作や振動・騒音計測などを体験、理論と実践を融合したIPAならではのプログラムを満喫することができました。

上海市は、中国屈指の商業・金融・工業都市であり、アジアビジネスを牽引する最も勢いのある世界都市の一つです。さらに会議期間が上海万博(中国2010年上海万国博覧会)と重なり、会場近郊は大変な賑わいでした。経済成長に伴い都市開発の進む上海から、圧入工学の最新情報を世界に発信できたことで、今後の認知拡大や研究の進展が大いに期待されます。

開会



岡村 南 名誉会員による
開会の挨拶



彭 芳案(パン・ファンルー)
理事からの歓迎の挨拶



吳 宏偉(ウ・ホンウイ)香港科技
大学教授からの歓迎の挨拶



北村 精男 名誉会長の挨拶



会議開催風景



奥村 忠彦 事務局長
による司会進行

特別プレゼンテーション Part1



マルコム・ボルトン教授 (IPA会長)
「大深度掘削に関する最新情報」



彭 芳案 (パン・ファンルー) 教授 (IPA理事)
「中国における圧入工法の現状及び展望」



菊池 喜昭 博士 (港湾空港技術研究所)
「開端杭における内周面抵抗メカニズム」

▶ 第2回IPA研究助成賞 研究成果発表



特別プレゼンテーション Part2



片山 猛 氏 (新日本製鐵株)
「中国における鋼矢板広報の現状と将来」



石原 行博 氏 (株技研製作所)
「PPTデータの予測手法の提案と評価」



李 哲明 (リ・ジャミン) 氏 (ケンブリッジ大学)
「繰返し荷重と地震が杭群に及ぼす影響に関する研究」

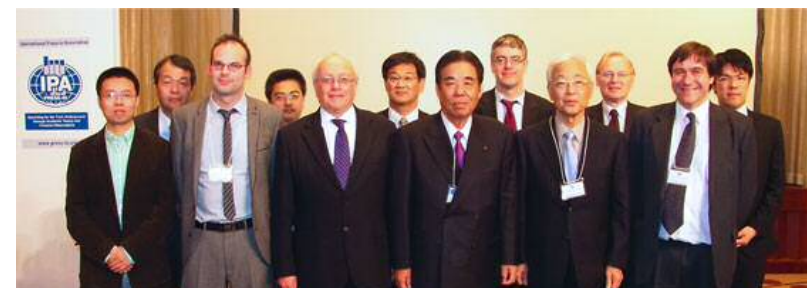
特別プレゼンテーション Part3



王 衛東 (ワン・ウイドン) 博士
(華東建築設計研究院)
「上海における建築基礎の現状と将来」



▶▶ 第3回IPA研究助成賞 授賞式典と研究提案プレゼンテーション



圧入見学会 2010年10月15日(金) 於 南江臨港新城



開催日：2010年10月15日(金)
 開催地：上海市南江臨港新城
 会場：海軌交通十一号線南段
 鉄道新設工事現場の第9工区内
 主催：IPA実行委員会及び事務局
 実施協力：株式会社技研製作所(機械、解説員)
 新日本製鐵株式会社(鋼矢板)
 三井物産株式会社(輸出入、資機材)
 上海市第二市政工程有限公司(会場)
 圧入機種：サイレントパイラー-SA100(スーパーオート)
 プログラム：圧入施工デモンストレーション
 (圧入、自走、コーナー施工等)
 圧入機操作体験
 圧入管理システム実演
 振動・騒音計測



メイン会議であるオークラガーデンホテル上海(上海市盧湾区)から約75Km、車で90分の郊外に位置する臨港新城で、圧入見学会を開催しました。特設会場を設けて実施するのは、ワークショップ初となります。移動の車中では圧入技術の概要や、圧入デモンストレーションの内容などが予め説明されました。会場は海辺に隣接する広大な開発途上地であり、まわりには建物や民家も少なく、間もなくスタートする鉄道の新設工事をじっと待っているといった風情でした。



特設会場には参加者がくつろげるスペースが用意され、快適に「圧入・引抜・自走」等一連の動作を見学していただきました。同時に、実際の工事現場と違って圧入機を間近に観察できるため、自由な距離と角度から熱心に見入る方々の姿が印象的でした。さらに、参加者数名には、圧入施工技士の指導の下、その場で圧入機操作を実際に体験してもらいました。参加者からは、操作性や安全性、圧入スピードや静寂性など、技術力の高さに感嘆の声が漏れていました。



圧入管理システム

騒音計と振動計



歓迎レセプション 2010年10月13日(水) 於 オークラガーデンホテル上海



ワークショップ前夜の13日(木)、恒例の歓迎レセプションを開催しました。今回は第2回以上に参加者が多く、業界もバラエティに富んでいるため、初対面の会員同士が自己紹介したり、常連の会員らが近況報告や情報交換をして旧交を温める光景などが、会場のあちこちで見られました。

今回も、さまざまな国から参集した、国籍や年齢の異なる研究者や技術者が、食卓を囲んで自然と笑顔がこぼれる中、歓談しながら交流を深め、圧入について熱心に語り合う姿が印象的でした。

